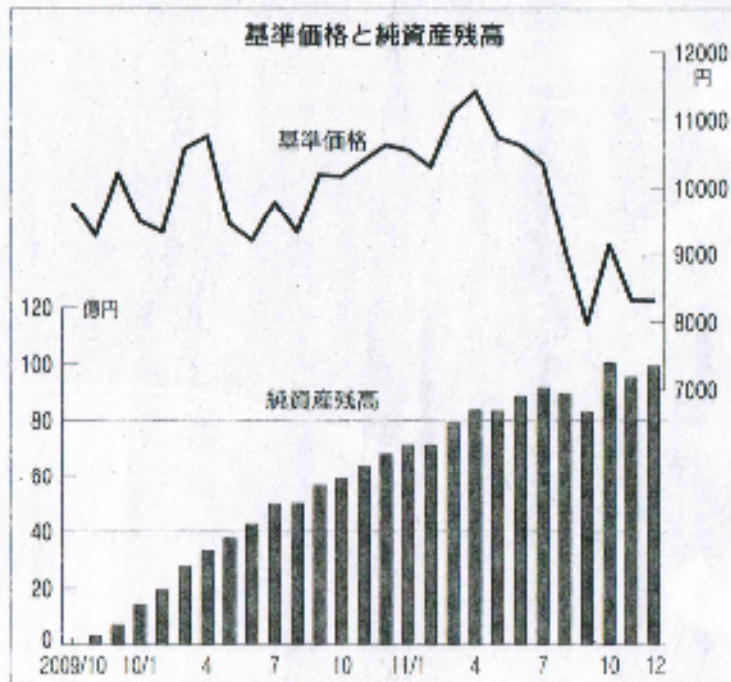


投信 ウオッチ

eMAXIS新興国株式インデックスの概要

運用会社	三菱UFJ投信
設定時期	2009年10月28日
投資対象	ブラジル、中国など新興国を中心とした銘柄
分配金	前期末実績は0円
基準価格	8309円(▲21.9%)
純資産残高	99.35億円(45.4%)

(注)基準価格、純資産残高は昨年末値。カッコ内は2010年末比増減率、▲はマイナス



2011年の株式相場は欧州債務問題による信用不安から世界の投資家がリスク回避の姿勢を強め、特に新興国株の下落が目立った。三菱UFJ投信の「eMAXIS新興国株式インデックス」も株価下落の影響を受けたが、分散投資を徹底して大きな下落は回避。運用管理費用(信託報酬)の安さも追い風に、資産残高を増やしている。11年12月末の基準価格は8300円台と前年同

eMAXIS新興国株式インデックス

期に比べて2割強下がった。ただ、09年10月の設定来の騰落率はベンチマークの「MSCIエマージング・マーケット・インデックス(円換算ベース)」を3%超上回っている。定期的に組み入れ銘柄を変えて、分散投資に力を入れている。組み入れ上位国をみると、1位は韓国で約15%、ブラジルが約14%、台湾が10%台と続く。韓国は新興国ではなく、中国やマレーシアなど他のアジアの新興国との相関性はそれほど高くない。新興国と成熟国の中間と位置付け、ポートフォリオの上位に入れた。業種別では銀行(16%)やエネルギー(14%)、素材(13%)などが上位。銘柄別でトップは、半導体や半導体製造装置を手掛ける韓国のサムスン電子。次いでロシアのガスプロム、中国移動通信集

分散投資で変動抑制

団(チャイナモバイル)という順番だ。純資産残高は昨年末時点で99億円。年明けには100億円を超え、ほぼ右肩上がりで増えている。「販売手数料ゼロでコストが安く、給与引きが千円単位から設定できる点が人気」(びとろファイナンシャルサービスの尾藤峰男代表取締役)。信託報酬は0.6%と、新興国投信の中では最低水準に抑えた。主な販売会社はSBI証券や楽天証券などインターネット証券が多い。新興国の金融政策の動向が今後の成績を左右しそうだ。年後半には財政・金融政策による景気刺激の効果も期待できるとの声は多い。ただ1〜3月にはイタリアなどの国債が大量償還を迎える。欧州債務問題を巡り、世界の株式相場が再び動揺する懸念もある。